

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 戸畑中央 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）	
①	身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査	
<input type="checkbox"/>	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

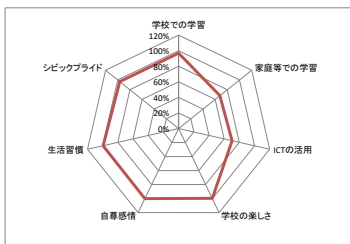
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均値をやや下回っている。特に「思考力・判断力・表現力」を問う、記述式の問題の正答率が全国平均値を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解しているか問う問題	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する記述問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均値をやや下回っている。特に「変化と関係」を問う問題、「記述式」の問題の正答率が全国平均値を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く問題	
	努力が必要な問題	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く記述式の問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析

- ・ 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という自尊感情の高まりについての問いに対して、約90%以上の児童が肯定的に回答している。
- ・ 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」という肯定的な回答をした児童の割合が高まっていることは、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した本校の授業研究の成果として挙げられる。
- ・ 「授業でのICT機器の活用」について、肯定的な回答の割合が低かった。今後は、調べ学習等の個に応じた指導の場面や、友達と協働的に学んでいく場面等での活用を推進していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

- 各教科等の学習で、友達との「学び合い（話し合い活動）」を適時取り入れることにより、自分の考えを広げ・深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができるようにする。
- ICT機器を活用した学習と、黒板・ノート等を活用した学習とを効果的に組み合わせながら、児童の主体的・対話的で深い学びに繋げていくことができるようにする。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 学校通信や学年通信、懇談会等を通して、保護者に家庭学習の意義や方法について発信していく。また、食育や健康面等、基本的な生活習慣の大切さについても、通信等で啓発していくようにする。
- 小中連携あいさつ運動やいじめ防止の取組等を適時実施することで、生活習慣・規範意識の醸成へと繋げる。